

ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2018 概要報告



○2018年11月30日～12月1日、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）にて「ESD 推進ネットワーク 全国フォーラム 2018 SDGs（持続可能な開発目標）を地域で達成していくための人づくり：地域 ESD 拠点の可能性」を開催。

■主催 ESD 活動支援センター、文部科学省、環境省

■共催 独立行政法人国立青少年教育振興機構

■後援 日本ユネスコ国内委員会

■協力 32 団体

■日時 平成 30 年 11 月 30 日（金）13:00-18:00

12 月 1 日（土）9:30-14:30

■会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
カルチャー棟小ホール等

○開催目的

■ESD に関する最新の国際動向、国内動向、「ESD 推進ネットワーク」のこれまでの到達点を共有。

■SDGs 達成に向けた意識・行動変革を進める ESD という意識を共有

「ESD 推進ネットワーク」において重要な役割を担う地域 ESD 拠点の活動と可能性について、具体的活動事例に基づいた経験の交流

⇒地域 ESD 拠点間のつながりを深め、活動の深化、高度化を図る。

地域 ESD 拠点の活動を学ぶことにより、地域 ESD 拠点への関心を喚起し、地域 ESD 拠点登録を促進する。

■分野、セクターを超えて多様な主体が連携・協働して ESD を推進（質的向上・量的拡大）するために、お互いに面識をつくり、地域を越えて実践例をもとに学び合い、ESD 推進方策について意見交換を行う機会を提供

○プログラム

初日（11月30日）

開会

フォーラムの導入

セッション1：基調パネルディスカッション

SDGsを地域で達成していくための人づくり・ESDのさらなる展開に向けて

セッション2：ポスター発表・情報交流セッション（50団体の出展）

セッション3：ESD関係省庁施策とESD推進ネットワークへの期待

持続可能な社会づくりのための消費者行動をめぐる諸課題を中心に懇親会

2日目（12月1日）

セッション4：分科会 地域ESD拠点：活動成果と可能性

分科会1■ 学校と地域ですすめるESD

分科会2■ 自然災害に備える人づくり

分科会3■ 地域と「国際」をつなぐESD

分科会4■ ユースの関わり、ユースの巻き込み

分科会5■ 体験活動を提供する施設のESD

セッション5：全体総括

閉会

○本フォーラムは、全国各地から、のべ369名が参加。昨年度の260人を大幅に超えた。

地域ESD活動推進拠点（地域ESD拠点）をメインテーマとし、企業、学校、NGO/NPOなどからの実践発表や、消費者の賢い選択をテーマとした省庁による施策紹介など、合計20件の発表。活発な意見交換が行われた。



初日セッション1

2日目セッション5

○また、全国の組織・団体の協力で、全体会の会場前で50の展示ブース。

ESD活動支援センター（全国センター）が始動して半年後の初回フォーラム（平成28年度）、8

つの地方センターが開設されて間もない昨年（平成 29 年度）の第 2 回のフォーラムと比べて、地域 ESD 拠点登録開始後 1 年となる今年のフォーラムは、参加者数や参加者のタイプに大きな広がりや深まりが感じられ、着実にネットワークが進展しているとの認識が共有された。



5つの分科会の様子

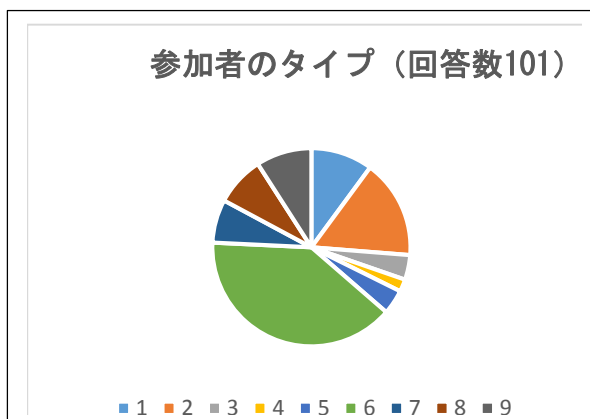
・様々な主体が SDGs（持続可能な開発目標）を大きく取り上げていることも印象的であった。

アンケート結果

参加者に対するアンケートの結果は概ね高い評価であった。

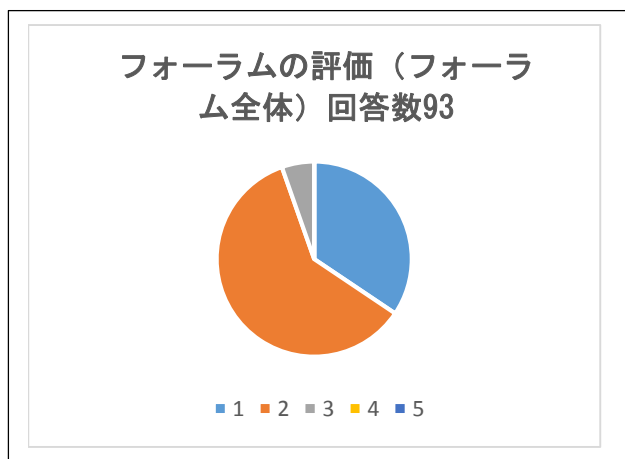
参加者のタイプ

- 1 市民・住民・一般 10名 (10%)
- 2 学校教育関係者 16名 (16%)
- 3 大学・研究機関 4名 (4%)
- 4 社会教育関係者 2名 (2%)
- 5 企業・事業者 4名 (4%)
- 6 NGO/NPO・公益法人 39名 (39%)
- 7 地方公共団体 7名 (8%)
- 8 ユース 8名 (8%)
- 9 その他 9名 (国 5名、独立行政性法人 1名、地方センター2名、地域おこし協力隊 1名)



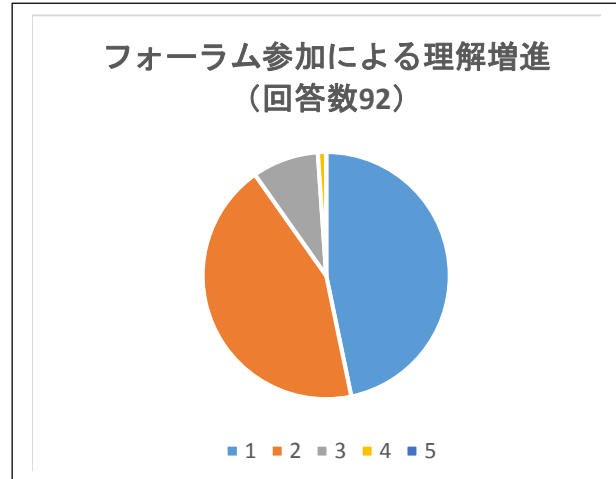
フォーラムの評価 (フォーラム全体)

- 1 たいへんよかった 32 (34%)
- 2 よかった 56 (60%)
- 3 ふつう 5 (5%)
- 4 あまりよくなかった 0
- 5 よくなかった 0



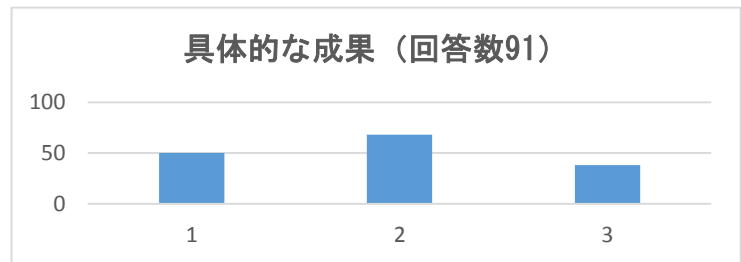
フォーラム参加による理解増進

- 1 おおいにそう思う 43 (47%)
- 2 そう思う 40 (43%)
- 3 ふつう 8 (9%)
- 4 あまりそう思わない 1 (1%)
- 5 全くそう思わない 0 (0%)



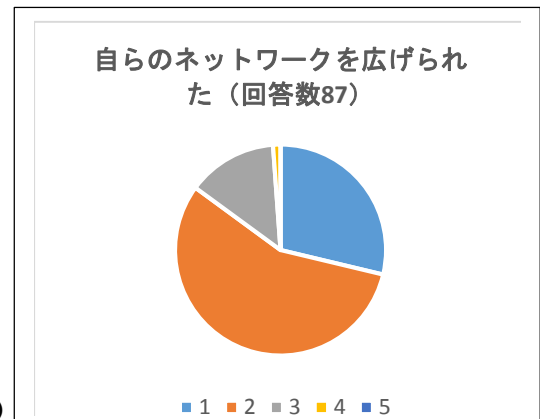
具体的な成果

- 1 ESD 推進ネットワーク、ESD 活動支援センター(全国・地方)、又は地域 ESD 活動推進拠点 (地域 ESD 拠点) に関する理解が進んだ 50 (55%)
 - 2 ESD に関する事例を学べた 68 (75%)
 - 3 SDGs 等、ESD に関連する事項の理解が進んだ 38 (42%)
- その他 (懇親会で多くの人と知り合うことができた。ESD に関心がある関係者が多様になっていることが分かった)



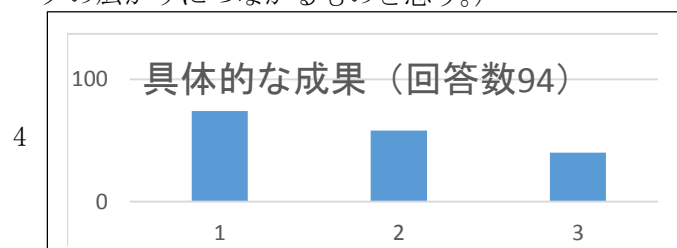
自らの ESD ネットワークの拡大

- 1 おおいにそう思う 25 (29%)
- 2 そう思う 49 (56%)
- 3 ふつう 12 (14%)
- 4 あまりそう思わない 1 (1%)
- 5 全くそう思わない 0 (0%)



具体的な成果

- 1 ESD に関わる人たちとの交流ができた 74 (79%)
 - 2 ESD に関わる人たちを新たに知ることができた 58 (62%)
 - 3 ESD を広めるための情報・機会が得られた 40 (43%)
- その他 (地方のひとと話すことができ参加して良かった。自らの知り合い同士のマッチングもできたので、それも間接的に自らの ESD ネットワークの広がりにつながるものと思う。)



総括

平成 30 年度の全国フォーラムは、おおむね以下のように総括できる。

- ① ESD 推進ネットワークが着実に進展していることが可視化できた。
- ② 特に、登録開始から 1 年という短期間に地域 ESD 拠点が 60 余まで増えたことは大きな成果。分科会を中心に、地域 ESD 拠点の活動をハイライトできたことは大きな収穫。
- ③ 他方、これを機会に原点に立ち返って、なぜ ESD 推進ネットワークが必要か、地域 ESD 拠点が必要か、再認識することが重要。
- ④ ESD 活動支援センター、地域 ESD 拠点を通じて様々な ESD ステークホルダーの「つながり」を作ることがキー。
- ⑤ 学校教育関係者の一層の参加促進、地域的な濃淡・粗密の解消が今後の課題。
- ⑥ 今後に向けたキーワードとしては、例えば以下の事項が挙げられる。
 - ・ 地域資源を活かした地域独自のアプローチ
 - ・ 地域の実情に合った SDGs の構築と推進
 - ・ 既存のイニシアチブの活用、それらのネットワーキングをさらに進めることが重要。

(例) 地域のユネスコ協会

エコパーク、ジオパーク

ESD コンソーシアム、RCE、高等教育機関

青少年自然の家のような社会教育施設

学校、教育委員会

